

GRAZZIE

“グラッツェ”

“グラッツェ”とはイタリア語で“ありがとう”の意味。陽気なラテン民族の言葉に倣って、素直に感謝の言葉を口にできる明るい場作りを、本学科は心がけています。



Field Work
座談会



フィールドワーク 実際行って見て、 で、どうだった？

聞くと行くでは大違い。
ちょっぴり勇気を出して実際に現場に向かった4人が感じたことを、
心ゆくまで喋ってもらいました。

FIELD WORK

name: 田中 瑞紀

year: 1年生

sex: female

place: アフリカ・ザンビア

DEPARTMENT OF INTERNATIONAL STUDIES, MEISEI UNIVERSITY

FIELD WORK

name: 中村 史菜

year: 1年生

sex: female

place: カンボジア

DEPARTMENT OF INTERNATIONAL STUDIES, MEISEI UNIVERSITY

FIELD WORK

name: 大場 美沙

year: 3年生

sex: female

place: メキシコ

DEPARTMENT OF INTERNATIONAL STUDIES, MEISEI UNIVERSITY

FIELD WORK

name: 周浩然

year: 1年生

sex: male

place: 中国・重慶

DEPARTMENT OF INTERNATIONAL STUDIES, MEISEI UNIVERSITY

FIELD WORK.

それぞれの場所のフィールドワークに参加を決めた理由

中村 兄が大学生の時にカンボジアでボランティアをしており、その話をよく聞いてきました。私自身も小学生の時に絵本をカンボジア語に訳して送るという活動に関わったことがあり、なんとなく親しみを感じていました。

大場 私は2年生の後期に英国留学をし、戻ってきてからもう1度海外へ行きたいという気持ちが強くなりました。“食べ物”を考えた時、メキシコは他の3カ国よりもイメージしやすかったので、決めました(笑)。

周 僕はもともと天津生まれの中国人なのですが、7歳で来日してからずっと日本で暮らしてきたので、意識はすっかり日本人(笑)。だから逆に「母国はどうだろう?」「学生たちはどんなことを考えているんだろう?」と興味を沸いてきたのが理由です。

田中 私はフィールドワークに参加するんだったら普段、旅行とかでは行けない場所に行ってみたくないなと思っていました。入学直後のオリキャンで、コバルトブルーのザンジバルの海を先輩からパネルで見せてもらい、さらに授業でアフリカは貧困だけではないんだと知り、さらに好奇心をそそられました。



はほぼスペイン語。だからあとはジェスチャーで頑張りました。

中村 日本語を勉強している学生さん達とは日本語でやり取りしましたが、あとはほぼ英語。言いたいことが言えないもどかしさで悔しかったです。

周 俺も中国語の標準語は結構大丈夫なのですが、それが通用したのは大学内での交流の時だけ。外に出れば重慶はものすごく方言の激しいところなので、現地の大学生が一生懸命通訳してくれました。彼ら、日本語が驚くほどペラペラだったので、ほとんど日本語で会話をしていましたよ(笑)。

田中 私も英語はそんなに得意な方ではありませんでしたが、現地の人が優しくゆっくり話してくれるので、コミュニケーションはできました。

は「折って〜!」。“鶴” だけじゃならず、慌ててホテルに戻ってWi-Fiで“手裏剣”を調べて作ったら大ウケ。なんでかって、彼らは忍者に憧れていますからね。

周 僕は中国だから(日本と文化が近いから)、ほとんど荷物は持っていらず、逆におみやげをたくさん持って帰ってこられるように、スカスカで行きました。

大場 お土産用にカリカリ梅を持っていきましたよ! 柿ピーなども喜ばれましたが、意外と反応が面白かったのは、コアラのマーチ。チョコが“外”ではなく“中”に入っているのがものすごくフシギに見えるらしく、「どうやって入れているんだ?」と目を丸くしていました。筆ペンやあんこ系をお土産に持っていった子もいたけど、個人的には日本らしいお茶系のお菓子がオススメです。

FIELD WORK

言葉の不安とかはどうでしたか?

大場 私は留学していたので英語で話すことに抵抗はなかったのですが、メキシコはスペイン語。だから、明星サマースクールにも参加している現地のサポーターチームが、英語→スペイン語通訳をずっとやってくれました。お店では割と英語も通じたけれど、売店

FIELD WORK

持ち物は?

中村 荷物はかなりたくさん持っていきました。でも意外とガイドブックとかタオルは使わなかったな。

田中 私は普段の旅行よりちょっと枚数多めの服を詰めただけでした。持って行って大正解だったのは折り紙。子ども達がわいのわいのと寄ってきて、一人一枚ゲットした後に



“ いやあ、実にいろいろありました!! ”
 そんなこと、あんなこと、こんなこと

司会 いろいろあるよね、実際行くと。

田中 はい。最初ビックリしました。ザンジバルはみんな、とにかくフレンドリーで明るいから、どこへ行っても「ジャンボ!(やあ!)」と声がかかるんです。一回話をしたらもう友達みたいな感じだから、次の日に会っても覚えていてくれる。人と人の距離が近いなあって思いました。みんな心がむき出しの状態で生きてるって感じで。陽気で優しく。親密になれて嬉しかったです。

司会 それからすると、帰ってきた日本は違って見えた?

田中 鎧をつけながら生きているように見えました(笑)。だって、知らない人に遊ぼうとか言わないじゃないですか。

司会 確かに電車でも折り紙やろう! って誘っても、ただのヘンな人ですね(笑)。

大場 ザンジバルも同じだと思いますが、メキシコも人と人の距離は結構近いですよ。店員さんが「どこから来たの?」と気軽に声をかけてくれて、「日本だよ」と答えると、そこからいきなり話は盛り上がり。というか……一方的にその店員さんだけが盛り上がり(笑)。「日本のアニメ最高! イエイ!」「AKB いいよね」「日本最高!」と、1人会話で私を圧倒(笑)。僕を知ってよきな、空気を読まない陽気な会話がが多く、可笑しかったです。そういう人が多いかと思えば、めっちゃ無愛想な人も。メキシコは中間がなかったです。

司会 メキシコでは確かプレゼンをしたんだよね?

大場 大学でしましたよ。日本のトイレによくある消音の乙姫、あれって、他の国では

ほとんど見ないのですが、「日本では用を足している音が“恥づかしい”からです」と説明をしたら、メキシコ人の学生みな、目を丸くしていました。オタ芸の紹介もしましたよ。

司会 中国重慶のフィールドワークも、学生との交流がメインなんだよね?

周 十数人の女子とたった一人の男子が、俺ら4人の男子を迎えてくれました。何が楽しかったって、放課後に学生とビリヤードしたり、カラオケしたりしながら、いろんなことを話したこと。勉強時間を聞いて驚きました。彼ら、一日8時間勉強しているんですよ!!

普通の時で4時間。試験前になると8時間。さすがに焦りました。俺たち、ヤバイじゃん、みたいな(笑)。

司会 で、周さんは帰ってきて自分も勉強やるようになりましたか?

周 その時はそうだったんですが(笑)、



一日2時間はやるようになりました。

司会 中国でも、日本のネタが大流行りなんですよ？

周 でしたー。進撃の巨人についてとか、AKBは、みんなが知りたいネタ。さらに今回は受け入れてくれた学生が女子が多かったので、日本の化粧品ブランドについてたくさん質問されて、俺ら男子は本当に困りました。しかも、さっきザンジバルの“人と人の距離が近い”って話が出てましたが、中国も“物理的に近い”ので、喋る時にかなり接近気味だったので、思わず引きました(笑)。

大場 そうなんだよね、私はメキシコで「中国人と韓国人と日本人の見分け方」というプレゼンをしたんだけど、中国人は男子女子に限らず、仲良しだと手をつないで歩くくらい、接近してるからね。

司会 ははは、密な人間関係の中で、ほかに面白かったことはありますか？

中村 私達はカンボジアでソーシャルビジネスという、ボランティアから一步越えた、社会のためになる活動をビジネスとして継続可能な形でやっていく、そのモデルを勉強しにいったんですけど、工場見学のみならず、普通の家庭を見せてもらったのが楽しかったです。日本と違って素朴な木や藁で作られていて、その中で女性達がいろんな作業をしているんですけど、他愛もない話をしながら夕食のカエルを焼いたり、なぜか日本のユニクロのポスターが張られてあったり(笑)。生ものがむき出しのままゴザに並べられている市場へも行って、逆に日本は衛生面でもものすごく厳しい国だったんだなと思い知りました。

司会 単純に食べ物で、エッ？っていうもの、食べました？

中村 はい……タランチュラ、めったにない機会だからと食べました(笑)。お皿にきれいに盛りつけられていて、ちょっと毛が生えているのが難でしたが、エビの唐揚げみたいな感じでした(笑)。

周 俺らは泣かされる食べ物、食べました。それは『火鍋』。唐辛子と山椒で真っ赤になったスープは、本当にとんでもなかった……。激辛過ぎて、脳みそがしびれ、舌も感覚がなくなります。しゃぶしゃぶみたいな感じで食べるのですが、スパイスが具にぎとぎとついてくるし、たれもゴマ油でぎとぎと。

大場 具はどんなの？

周 さりげなく豚の脳とか。向こうの女子は美味しそうに食べてました。けど辛過ぎて口の中すべてがしびれて、味などわかるはずがなかった。

大場 そりゃすごいね。メキシコはドローンとサボテンのステーキが出てきたよ。葉っぱみたいなサボテンが皮がむけた状態で皿の上のせられて出てきます。赤いソースは辛いけど、黄緑のソースも辛い。いずれにしても辛かった。

田中 ザンジバルもスパイスがたくさん取れるので、料理にたくさん使うんですけど、そこまで辛くなかったな。ただし、スパイスが“丸ごと”“原型で”入っているので、ピラウなどを食べるとガリッと音がします。あと珍しいところでは、調理用のバナナ、かな。

大場 どんな味？

田中 うーん……芋、みたいです！

FIELD WORK.

大変だなと思ったことは？

田中 私、湯船ラブなので、シャワーだけ、しかもお湯がほとんど出てこない環境は、ちょっと大変だなと思いました。日本みたいに、お湯もお水もふんだんに使えるのって、贅沢ですよ。

中村 トイレに便座がないところがあって、どうすればいいのかちょっと困ったのと、『列に並ぶ習慣がない』カンボジアで、いつ待ちの人々の間に割って入るかにちょっと苦労したことがありました。日本って、フォーク並びとかするでしょう？ ああいうのがまったくなかったので、少し気合いが必要でした。

周 中国は、お店のおばちゃんとかの勢いが全然違います。ただお店で「安いよー！」「こっちへいらっしゃーい！」と大声を出すだけじゃなく、俺らが歩いているとそこへずーっとついてきて「あんた、どう？」って強引にモノを買わせようとするからねー。先生はうまくまけてもらっていたけど、先輩は言い値で買わされました(笑)。

大場 現地で大変だなと思ったことではないのですが、私、出発前に大慌てをして、プレゼン用のUSBを忘れて、凍りました(笑)。おまけにデジカメのSDカードも忘れて……。携帯も移動中の車の中に置き忘れてしまったりしたのですが、電化製品は特に現地ですっかり管理をしないと、後々大変です！

FIELD WORK.

フィールドワークに参加して得たものがあるとすれば？

周 はい、さきほどの話にも出たように、辛さには強くなりました(笑)。一週間に3回は火鍋を食べていましたから(笑)。

田中 なんでも買って捨てるという発想ではなく、まずは今あるものをなんとかして使えないかな、つまりモノを大事にするという発想に変わった気がします。というのも、向こうでは荷車とかも、車輪が右と左が違うのを使っていたりするんですね。まずは今有るもので補って大事に使う、と。日本の幼稚園バスなんかも、そのまま市民の足として、公共バスとして使われているんですよ。だから、〇〇幼稚園と側面に書かれたまま、走ってる。物資の中で何か足りないものがあったら、それを苦とは思わず、生きててみんなと生活しているのがシアワセ。そんなシンプルな価値観がステキだと思っていました。

中村 地雷とかポルポト政権の暗いイメージで語られることが多いカンボジアですが、実際に見てきたことによって、むしろ「こんなところがあるんだよ」と言えるようになったと思います。川沿いにトレーニングマシーンが置いてあるのですが、横にいるおばさん達がその使い方を一生懸命教えてくれる。生活のスタイルは本当に千差万別だけれど、そのいろんな立場からの見方があるってことを教わった気がします。

大場 やっぱり行ってみなければわからないですよ、なんでも。メキシコはサボテンと大きな帽子をかぶった人ばかりだと思っていたら、意外と普通な国だった、行ってみなくちゃわからないということを変えて学びました。

FIELD WORK.

現地で見つけた日本

中村 カンボジアでも日本の企業で働きた





いって言っている人がたくさんいました。日本って私が思っていた以上に海外進出しているんですね。現地の人もAKBやあっちゃんの話になると大盛り上がり。「卒業の時のこの曲が……」とかいろんなことを知っていて、ビックリでした。

大場 メキシコでもそうだったよ。こっちでもあっちでも、『恋するフォーチュンクッキー』を踊れたらもう引っ張りだこ。現地の人の別荘に滞在した日には、そこにあったプールで、明星の学生も、現地の学生もみんな、水中で『恋するフォーチュンクッキー』を踊ったからね。あとはセブンイレブンに置いてあった金ちゃんヌードルを見つけてきました。すごい人気だそうで、屋台で売っている金ちゃんヌードルは、ライムを絞り入れて食べるそうです！

周 中国でも女子がすごい元気だったな。日本製の機器は大変人気で、高性能で質がいいってみんな言っていました。ゲーム機も、日本製が憧れだそうです。

FIELD WORK.

**フィールドワークへの参加を
きっかけにつかんだ、これから**



周 向こうの学生がとても積極的だったので、俺もこちらから話を提供できる自分になりたいって思いました。

田中 喋ろうと思ったことがスムーズに出てこないことが悔しくて、英語にもっと力を入れようと思いました。言葉だけじゃないコミュニケーションの大切さも知ったので、ジェスチャーを中心にした表現力に磨きをかけたいな。

中村 アンコールワットにも行ったのですが、やっぱり世界遺産は素晴らしい。これから大学生のうちにもっともっと、他国の世界遺産を巡ってみたいくなりました。

“これからフィールドワークへ行く人へ”

司会 国際コミュニケーション学科では、これから自分もフィールドワークへ参加してみたいという人がたくさんいると思うのですが、その人たちに何か言ってあげられることってありますか？

田中 向こうへ実際に行かなくちゃ、人の温かさも分からないですから。

司会 日本を離れたから、日本の良さが見えるってのもありますよね。

田中 本当にそうです、恵まれた環境にいたんだなってことなど改めて。

司会 普段はなかなか行けない国にこの機会に行ってみるってのもあるよね。

大場 そうそう、先生も一緒に行ってくれるし、人数が多ければアシスタントの人も一緒だから、安心感もポイントです。だって、



一人で旅行しようと思って、ハワイはあっても、アフリカとかメキシコって、そうそう旅行じゃ行けないでしょ？

司会 ザンジバルは現地の普通の人との交流、カンボジアはNPOの人たちとの交流、中国とメキシコは同世代の学生との交流が待っているわけですが、そういう機会も旅行じゃあまり得られないですもんね。

中村 カンボジアでも、現地の人の生の生活に入り込みますから。いろんな面で異文化を感じられて、すごく楽しかったです。見れば全然印象が変わります。

司会 留学でも現地の生活には入り込むと思うのですが、留学との違いはどこにあると思いますか？

大場 やっぱり費用と時間の面。留学ってかなりの

思い切りが必要だから、時間とお金で躊躇する人が多いと思うけど、せいぜい10日という短期間で視野を広げることができるフィールドワークはそういう意味ではオススメです！

周 ほんと、自分の目で確かめることがなによりも大切です！

2時間に及んだ今回の座談会。結局座談会に協力してくれた4名の話の結論は『百聞は一見にしかず』。実際に足を運ぶことは、座学の何倍もの価値があるというのが、全員一致の意見でした。



自由な時間が持てる学生時代にぜひ、一歩足を踏み出してみてくださいね。

Wanted

学生編集スタッフ募集中!
 将来マスコミの仕事をしたい人、またはイラストなどで自己表現をしたい人、記事を書きたい人など常時募集中。企画段階から実際に形になっていくまで、全てを自分で体験できるので、とてもやりがいがありますよ。積極的な参加をお待ちしています。
これは是非載せて欲しい!の記事&情報大募集
 "GRAZIE"は、学生のみなさんと作っていくメディアです。より充実した内容にしていけるために、どんな些細なことでもネタをお待ちしています。
 [応募先] 〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1明星大学国際コミュニケーション学科
 Tel 042-591-5329またはinfo-com@ealeal.meisei-u.ac.jpまで

「編集スタッフの眩き」
 若い時の体験はその後を大きく変える。何が得られるのか具体的には分からなくても、とりあえず行ってみる。そうすると、そこには言葉にならない様々な感動や想い出が、たくさん待っている。とりあえず一歩足を前に出すことで前進!いろんな体験ができる時期には、限りがあることを忘れちゃいけない。■Y